

http://www.kensetsunews.co.jp

長崎建設新聞

発行所
建設新聞社

〒854-0064
諫早市若葉町165-11
☎ (0957) 25 - 5552(代)
(0120) 54 - 6780
Fax (0957) 25 - 5651
(0957) 25 - 5556

振替口座 01840-7-25591
購読料 月額 5,250円(税込)

長崎県内建設業
業界専門紙

高齢化・後継者不足の農業参入など

地域に役立つことが重要

米田氏ら講演 新分野進出セミナー

(財)長崎県建設技術研究センター(NERC)は31日、「建設業の新分野進出に向けて」と題したセミナーを同センター内で開催した。後援は長崎県。

講師には、建設業の新分野進出に関する文献を多数出版し、全国各地で講演を行っている米田雅子氏(NPO法人建築技術支援協会常務理事・事務局長)を招き、参加した建設業者や県職員ら約90人が、建設業の新たな方向性について考えた。

全国450社の事例から代表的な企業を紹介し、新分野進出のポイントや留意点などを解説した米田氏は「今後生き残れる企業は、地域や社会が必要としていること」と強調。高齢化・後継者不足に悩む農業など、地域・社会が真に必要とする分野への参入を勧めた。また、技術力を一般市民にPRしていくことも重要で、行政側にも技術と経営とモデルに優れた企業をきちんと評価してほしいと要望した。



話す米田雅子氏

各種分野への進出では、ストック事業が耐震改修や耐震診断などリフォーム市場はまだ発展途上の段階であるため、技術力で他社との差別化を図ること。環境リサイクル分野では、販路の開拓が大変であること

建設業の新たな方向性について

の進出では、東京足立区の駐輪場をPFIで受注し、業績が順調な企業を紹介。例えば、地元で保育園がないので建設して運営するなど、PFIも幅広く考えることも必要と

し、また、公共サービスの官から民への移行について、高齢者の給食サービスなど、住民が必要としているものは必ずあると力説した。

農業参入では、これまで農家にはできなかったことを目指すことを勧め、耕作放棄地の復活できるのは建設業だけで、農水省でも放棄地の耕作者へ補助金を助成するといった動きがあることも紹介した。

最後に、新分野進出の成功の秘訣を「自分のやりた

いことを見つけること。好きであることが非常に大事」などと述べ、時代の変化のチャンスをものにしてほしいと締めくくった。

そのほか、経営革新や経営多角化など新たな展開を試みる日本建設技術(株)の原社長が「ガラス廃材の再利用・再資源化による新素材を建設分野への有効利用」と題し、ミラクルソルによる各種工法などを事例紹介。その後、講師と参加者による意見交換も実施された。